



学校だより

令和6年2月29日

No. 12 3月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

晴れ舞台に向かって

校長 金子 博美

桃の花咲く季節となりました。

「ハレ」と「ケ」という言葉があります。「ハレ」は、「晴れ」＝晴れ舞台、晴れ着の「ハレ」です。冠婚葬祭や年中行事などの特別な日を指し、それは非日常です。一方「ケ」は、それ以外の毎日＝普通の日や場を指します。つまり日常の世界です。卒業式の練習が始まりました。体育館へ行くと、6年生がステージ前のひな壇に並び、「ハレ」の日のために選んだ2曲を歌っていました。歌声は明るく、まだ「ケ」の印象。これから晴れの日に向かって練習を重ねるごとにこのメロディーにそれぞれが思いを込め、また、礼儀作法に従って式の流れや自分の動作を確かめる中で、「卒業生」になっていくのだと思いました。

晴れの舞台に、一人ひとりがあがります。名前を呼ばれ、返事をし、前に進み出て、卒業証書を受け取るために。1年前に送り出した子どもたちも、緊張した表情で、練習した作法の通りに真剣に行っていました。きっと、この6年生も同じように堂々とした姿を見せてくれるはずです。卒業証書を一人ひとりに渡す時、その表情を態度にいつも感動します。そして、その姿を舞台上でしっかりと見届けることは、私と卒業生の「最後の授業」とも言える瞬間だと思って臨みます。

今年度の6年生の学年テーマは「白鳥」です。3月19日、白く美しい羽を広げて羽ばたき、第55期卒業生としてこの学校を巣立ちます。また、25日には、1～5年生が4月より一回りも二回りも大きくなって、今年度の学びを終えます。篠原西小学校の校長として2年目、子どもたちが笑顔で過ごすことができるように願っているのは私たち教職員だけではなく、保護者の皆様や地域の方々も同じであることを1年目以上に日々実感しています。学校としてその思いにどのようにこたえていくことができるかと考える時、いつも、目の前にいる子ども一人ひとりを大切にし、心も体も健やかに育てること、そしてその子らしく輝くように導くことに尽くしたいという思いに至るのです。子どもたちを見守り、支えてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。一年間、ありがとうございました。卒業式という「ハレ」の場に向けて「ハレ」の自分を創り出そうとする一人ひとりを励まし、輝く姿のために最後まで寄り添っていきたくと思っています。

【子ども110番の家】～今年度も、ご協力ありがとうございました～

幸いなことに、これまでに事件性のある事案で子どもが助けを求めてきたといった報告はありません。これも地域ぐるみの見守りのおかげと思っています。

本校の「子ども110番の家」について遡って調べてみると、子どもたちが不審者に声をかけられたり異変を感じたりした時に一時的に保護を求められることができる『緊急避難場所』として定着するようにと平成11年に始めた取組であることを知りました。当初はまだ神奈川県下の小学校でも70校ほどで、港北区内では初めてだったそうです。その後、港北警察署の指導を受けながら校外指導委員とPTA本部役員とが地道な活動を続け、その年の10月に174軒の「子ども110番の家」をスタートすることができたと当時の「西小PTAハンドブック」に書かれています。その思いをつないでくださったおかげでこうして今も子どもたちは守られています。本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。